

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

池高の伝統である「自主・自律」が実践でき、グローバル社会の変化に主体的に対応して、納得して自らの人生を形成できる活力溢れる人材を育成する。

1. 変化する社会を自分の視点で捉え直し、自分らしく人の役に立つ意識を向上し、言葉や表情で様々な人とコミュニケーションできる能力を育成する。
2. 自己実現を図る進路目標の設定と希望進路の実現必達を支援する。
3. 学校行事や部活動等の幅広い体験を通して、知・徳・体の調和のとれた人格を陶冶する。

2 中期的目標

1 「授業で勝負」の理念で、「21世紀型学力」の育成に挑戦
授業力向上の取組みを学校組織として継続し、教科指導研究委員会を中心に、教科指導の質的進化を図る
(1) 池高型アクティブ・ラーニングを継承し、「主体的、対話的で深い学び」に繋がる《本時の目標と振り返りのある授業》を展開
(2) ICT活用を含め、全教科で一層「わかる喜びが散りばめられた授業」を展開
(3) 知識・技能定着に加え、発展的学力（思考力・判断力・表現力）や「学び続ける力」の育成
ア 土曜講習や補習・講習等の充実、着実な知識・技能の習得
イ 朝読書、総合的な探究の時間・HR等の活用による言語活動充実、論理的思考力・課題解決力育成
ウ 自学自習力育成（自習習慣の確立）と自習環境の整備
* 学校教育自己診断において、授業の理解度〔項目：授業はよく理解できる〕の肯定率75%を継続する
(H29年度：76%/H30年度：68%/R1年度：76%)
* 授業評価アンケートの自学自習項目の肯定率：2021年度までに3.0ポイント（満点4.0）に近づける
(H29年度：2.69/H30年度：2.77/R1年度：2.83)

2 「志」の育成と生徒全員の進路保障実現
学ぶための「志」を育成し、目標に対して安易な妥協をさせない進路指導を実施する
(1) キャリア・ガイダンス充実、高大連携企画（大教大府立高校教職コンソーシアム）や社会人講話の推進
(2) 進路情報の基礎となる全国模試の全学年・全員受験推進
(3) 3年間の進路指導計画充実と、新入試等のタイムリーな進路指導情報提供
(4) 教職員が働き方改革に努め、教職員自らがいきいきと働く姿勢を生徒が感じ、「志」のある進路指導とともに活力溢れる人材育成を行う
* 3年生現役国公立大学合格者が、前年度を維持或いは上昇することを目標とする
(H29年度合格者：18%/H30年度合格者：25%/R1年度合格者：35%)

3 総合的な「人間力」育成
(1) 3年間の教育プログラムに基づく生徒育成
(2) 学習と部活・行事を両立させる生徒育成
(3) 朝読書の活性化と工夫による読書習慣定着と個々の読書量の増加、図書館利用の促進
(4) 教育相談体制の充実
(5) 国際理解教育推進、国際社会を生きる実践的英語力向上
* 学校教育自己診断「勉強と部活の両立」の肯定率の上昇を目標とし、自己肯定感の上昇につなげる
(H29年度：53%/H30年度：53%/R1年度：61%)

4 本校の安全安心基盤、広報体制充実
(1) 本校独自の災害対策マニュアルの定期的な見直しと新たな取組みの導入
(2) 老朽化した学校施設・設備の改善
(3) 中学生に向けた広報活動の改善と推進
(4) 保護者に向けた情報提供の改善と推進

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和2年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
<p>本年度実施しました学校教育自己診断（生徒用）（保護者用）について分析しましたので、報告いたします。</p> <p>【生徒向けの分析結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問項目17項目のうち、14項目で肯定的回答が上昇しました。 ・特に「池田高校に進学してよかった」という肯定的回答が毎年上昇し、今年は90%になりました。学校としてもやりがいを感じています。 ・しかも、今年はコロナ感染症のために多くの行事を縮小したにも関わらず、「体育祭や学校行事などの学校行事は、進んで参加し、楽しんでいる」が昨年の90%より更に上昇し92%となりました。学校の取組や、生徒自身が「自主・自律」の精神の基、制限があるにも関わらず、積極的に参加してくれた結果だと思えます。 <p>【保護者向けの分析結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問項目17項目のうち、13項目で肯定的回答が上昇しました。 ・「池田高校に進学させて良かったと思っている」が昨年の91%から95%に上昇しました。生徒も保護者も池田に来て良かったと思っただけでなく、更に良い学校をめざしたいと考えています。 ・「学校の施設・設備は、学習環境の面でほぼ満足できる」の数値は例年と変わらず大変低く、肯定率40%でした。本年は創立80周年でしたので、それに合わせて中館のトイレを一新する予定でしたが、府の予算がコロナ対応最優先になってしまい次年度に持ち越されることになりました。また、グラウンドのトイレやクラブハウスの改修については令和3年の春に着手する予定です。 	<p>【第1回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した施設の改善補修を進めてもらいたい ・中学生向けのオープンスクールなどはコロナ感染対策をしっかりとった上で実施できるよう検討を進めてもらいたい ・語学研修については、新たな方法も含め、実施できるよう検討を願う <p>【第2回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自学自習に課題が残っているので対策を願う ・アクティブラーニングと授業進度を両立させる方法を模索されたい <p>【第3回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急事態宣言により、急遽書面会議とした ・次年度の中期的目標について賛同の意思確認をいただいたが、特段のご意見はなかった

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
I 二十一世紀型学力育成に挑戦	(1) 池高型アクティブ・ラーニングの継承	(1) アクティブ・ラーニングの継承 ① 教科指導研究委員会を中心とした授業改善の取組み推進(本時の目標と振り返りの実践と定着及び校内研修等の活性化) ② ディベート取組み推進 ③ 生徒の授業参画意識を促進する指導の工夫・改善	① 授業アンケートの「興味・関心」「理解度」前年度ポイントを上昇 (前年度 各 3.06 / 3.11) ② ディベート取組みの継続 ③ 学校教育自己診断(生徒)の「自分の考えをまとめたり、発表することがよくある」の肯定率が前年度より上昇する(前年度 63%)	① 授業アンケートの「興味・関心」「理解度」 (今年度 各 3.09 / 3.14) 【○】 ② 1年生でディベートに取り組み十分な準備により高いレベルのディベートとなった。【○】 ③ 自分の考えをまとめたり、発表することがよくある」の肯定率はコロナの影響で発表の機会を減らさざるを得なかった。(今年度 57.5%) 【—】
	(2) ICT 活用と「わかる喜びが散りばめられた授業」の展開	(2) ICT 活用と「わかる喜びが散りばめられた授業」の展開 ① ICT 利用教員数増加、そのための ICT 環境の整備改善。教材・情報共有化により教員の業務効率化を図る。 ② 教科毎及び学校全体の公開授業実施 ③ 教員間の互見授業推進 ④ 授業評価に課題がある教員は授業改善シート等を活用し改善注力。授業全般に生徒理解度を上げる。	① ICT 活用教員割合：環境改善に努めて前年度より活用教員割合を上昇 (前年度：60%) ② 公開授業週間を年間2回以上設定 ③ 授業互見回数一人平均2回以上 ④ 授業評価「知識・技能が身についた」3p以上の教員比率の上昇 (前年度 70%) ・学校教育自己診断(生徒)「授業はよく理解できる」肯定率の維持か上昇 (前年度 76%) 「教え方に工夫をしている先生が多い」肯定率の維持か上昇 (前年度 71%)	① ICT 活用教員割合 オンライン授業の導入がきっかけとなり大幅に上昇した (今年度：83%) 【◎】 ③ 11月、2月に実施 【○】 ③ 授業互見回数一人平均2回以上→春の休業を取り戻すため、相互見学の余裕がなかった 【—】 ④ 授業評価「知識・技能が身についた」(今年度 74%) 【○】 「授業はよく理解できる」肯定率 (今年度 79%) 【○】 「教え方に工夫をしている先生が多い」肯定率の維持か上昇 (今年度 74%) 【○】
	(3) 知識・技能の定着、発展的学力や学び続ける力の育成 ア 土曜講習や課外補習等の実践 イ 言語活動充実、論理的思考力・課題解決力育成 ウ 自学自習力育成と自習環境の整備	(3) 知識・技能定着、発展的学力・学び続ける力の育成 ア 土曜講習等の実践 ① 土曜講習・課外講習・補習の内容精選、年間を通じた計画的補習実施 イ 言語活動充実、論理的思考力・課題解決力育成 ① スピーチコンテスト、ディベート、エッセイ作成等、生徒自身によるアウトプットの機会を捻出 ウ 自学自習力育成と自習環境の整備 ① 二兎追え週間やチューター制度の定着、池高ラボの整備推進・活用率の維持 ② 新入生対象(勉強方法)オリエンテーション実施。自学自習の方法を指導ならびに予習意識の向上 ③ 自学自習企画の提供及び実施	ア 土曜講習等の実践 ① 授業外での取組み実態を把握し、生徒アンケート等を基に参加し易い組織的な形態を確立 イ 言語活動充実、論理的思考力・課題解決力育成 ① 生徒による自己表現の取組機会を年間2回以上設定する。 ウ 自学自習力育成と自習環境の整備 ① 授業アンケート：自学自習P上昇 (前年度 2.83p) 池高ラボ稼働率ほぼ100%の維持 ② 自主学习1日2時間以上の生徒数比率45%以上 (前年度 44%) ③ 「英語力発信講座(2日間集中講座)」の実施	ア 土曜講習等の実践 ① 学校休業補填のため土曜には授業があったため、土曜講習は実施できず。放課後の各教科による補講は実施 【—】 イ 言語活動充実、論理的思考力・課題解決力育成 ① 英語科によるスピーチコンテスト、総合的な探究の時間によるディベートなど、感染対策をとりながら実施 【○】 ウ 自学自習力育成と自習環境の整備 ① 授業アンケート：自学自習上昇 (今年度 2.91p) 【○】 池高ラボ稼働率100%維持 ② 自主学习1日2時間以上の生徒数比率(今年度 46%) 【○】 ② 「英語力発信講座(3日間集中講座)」3月に実施決定 【○】
II 「志」の育成と全員の希望進路実現	(1) キャリアガイダンス充実	(1) キャリアガイダンス充実 ① 大学見学会、学部学科説明会、教育実習生懇談会等実施 ② 大教大府立高校教職コンソーシアム活用	① 社会人講話の充実 ② キャンパスガイドの参加者数 (前年度：名/一昨年度：2名) 「教師にまっすぐ」への生徒参加 「教師塾」への教員参加	① 社会人講話の充実 1年生に対する9人の社会人からクラスごとに講座開催 1年生に対して JICA 講師による国際講座開催 2年生に対して阪大教授によるフューチャーデザインを活用した「総探」講座開催 【○】 ② キャンパスガイドの参加者数 コロナのため中止 【—】 「教師にまっすぐ」への生徒参加(今年度：13名) 【○】
	(2) 全国模試の全学年・全員受験推進	(2) 全国模試の全学年・全員受験推進 ① 学力指標としての全国模試等の、全学年全員受験を推進する。	① 各学年で実施予定の全国模試受験において生徒の受験率100%を継続	① 各学年で実施予定の全国模試受験において生徒の受験率事情のある欠席者を除き100% 【○】

府立池田高等学校

	(3) 進路指導充実	(3) 進路指導充実 ① 新入試等のタイムリーな進路情報提供 ② 3年生向け特別講習の充実等を背景とする進路実績向上	① 学校教育自己診断(生徒)「学校の進路指導や進路に関する情報に納得できる」の肯定率:85%以上(前年度84%) ② 現役国公立合格者:前年度比率を維持或いは上昇させる(前年度:35%)	①「学校の進路指導や進路に関する情報に納得できる」の肯定率(今年度86%)【○】 ②現役国公立合格者(今年度:31%)【○】
Ⅲ 総合的な「人間力」育成	(1) 3年間の教育(生徒育成)プログラム継続実施	(1) 3年間の教育(生徒育成)プログラム ① 3年間の時期に応じた育成ポイントを設定、特に自主自律を推進する施策を各分掌・学年で企画する。 ② 3年間のプログラムの中で生活指導の重点ポイント(登校指導期間、挨拶励行指導時期、遅刻防止週間等)を設定、生活習慣や規律規範を確立させる。 ③ 3年間のプログラムの中で、人権意識の向上とバランスのとれた人権感覚を持つ社会人を育む機会を与えていく	①創立80周年を受け、池高伝統「自主・自律」の意識を高め、生徒育成を図る機会を設定する ②学校教育自己診断(生徒)「学校生活についての先生の指導は納得できる」の肯定率の維持か上昇(前年度:71%) 学校教育自己診断(教員)「生徒指導において家族や関係機関との連携ができています」:肯定率の上昇(前年度78%) ③学校教育自己診断(生徒)「命や人権の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定率の維持(前年度89%)	①池高伝統「自主・自律」の意識を高めるため、コロナ禍の中でも文化祭、体育祭を実施し、学年ごとにスポーツレクを開催するなど、生徒自主運営の機会を設けた。【○】 ②「学校生活についての先生の指導は納得できる」の肯定率(今年度:79%)【○】 学校教育自己診断(教員)「生徒指導において家族や関係機関との連携ができています」:肯定率(今年度97%)【◎】 ③「命や人権の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定率(今年度81%)【△】
	(2) 学習と部活・行事の両立	(2) 学習と部活・行事の両立 ① 自学自習プロジェクトチーム中心に学習・部活両立に向けた取組み推進 ② 部活の活性化、生徒の活躍推奨	①学校教育自己診断(生徒)「勉強と部活の両立」の肯定率の上昇(前年度61%) ②部活動ガイドラインの定着に努め、生徒自身の部活動に対する考え方、取組み方の変化を図るアンケートを実施する	①「勉強と部活の両立」の肯定率の上昇(今年度61%)【○】 ③部活動開始の時期が6月以降となり、新入生勧誘が7月まで続く中で、起点となるアンケートが実施できなかった【-】
	(3) 読書習慣確立	(3) 読書習慣確立 ① 朝読書の活性化と工夫による読書習慣の定着、生徒の読書意欲の高揚 ② 図書室利用の推進と図書施設見直し	① 月間平均2冊以上読書する生徒比率の回復(前年度24%/一昨年度32%) ① 図書室貸出冊数前年比5%以上増加	① 月間平均2冊以上読書する生徒比率(今年度28%/昨年度24%)【○】 ② 図書室貸出冊数前年比10%増加【◎】
	(4) 教育相談体制充実	(4) 教育相談体制充実 ① エアコンもなく相談しにくい環境の教育相談室の整備を推進しつつ、教育相談体制やスクール・カウンセラー相談日の周知徹底。教育相談委員会を年間10回実施	①学校教育自己診断(生徒)「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」75%以上の維持(前年度76%)	①「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」(今年度79%)【○】
	(5) 国際理解教育推進、実践的英語力向上	(5) 国際理解教育推進、実践的英語力向上 ① 従来のオーストラリア語学研修、エンパワメントプログラムを継続実施するとともに、1年生対象に国際理解教養講座を実施 ② 授業は勿論、外国人講師との英会話等、英語4技能の能力向上に努める ③ 国際理解教育を推進する取組みにおいて、異文化理解を含め、バランスのとれた人権感覚を育む	①・語学研修生派遣人数最大の30名で実施 ・エンパワメントプログラム参加者の増加(前年度第1回:13名) ・各取組実施後の生徒満足度(肯定率):95%以上(前年度100%) ②2年生が受験する英検で、目標設定を上回る結果をめざす ③各取組実施後に振り返りを必ず行い、バランスのとれた人権感覚の醸成を図るように努める	①・語学研修:コロナで中止【-】 ・エンパワメントプログラムコロナで中止【-】 ・代替として英語発信力養成講座25名参加予定【◎】 ・各取組実施後の生徒満足度(肯定率)3月実施 ②2年生が受験する英検で、英検2級レベル以上 1年次 2年次 60人 178人【○】 ③各取組実施後にアンケートをはじめ振り返りを実施した【○】
Ⅳ 学校安全基盤の充実・	(1) 本校独自の災害対策マニュアル周知徹底	(1) 本校独自の災害対策マニュアル周知徹底 ① 自然災害経験を活かすと同時に感染症予防の観点も含めたマニュアルの見直しを行う	① 避難訓練実施要項の更新、生徒自治会やLHR等を活用して災害対策に関する検討の機会を設定する	① 年2回の防災避難訓練日に、担任より周知した【○】
	(2) 老朽化した学校施設・設備の改善	(2) 老朽化した学校施設・設備の改善 ① 迅速な施設・設備の改善を実践する ② 古いと汚いの違いを意識して清掃活動や日々の整理整頓に努める校内組織の構築	①事務室との連携強化で対応 ②生徒や保護者の不満も多い老朽化への改善要望を継続し、学校としてできることから実践し形を残すためリサイクルでもリメイクでもなく少しでも新しいものを提供する	①②中館のトイレ改修工事は、コロナのために府の工事予定が全て延期された。グラウンドのトイレ、クラブハウスの改修は3月末までに終える予定。食堂の机と椅子を新調【○】

府立池田高等学校

<p>(3) 中学生にむけた 広報活動の改善と推 進</p>	<p>(3) 中学生向け広報活動の改善と推進 ① ・オープンスクールや学校見学会に生徒自治 会関与を増やし、本校生徒による中学生向け PRを推進する ・よりわかり易く、見やすい資料への改善 を行う</p>	<p>①オープンスクールと学校見学会来場者 数の維持或いは更新(前年度:2072名) ②本校生徒が広報活動に一層参加できる 企画立案・推進 ・一昨年度より始め好評な自治会による 学校掲示板を活用した季節感が溢れか つ本校らしさをアピールする情報発信 の継続</p>	<p>①オープンスクールと学校見学 会来場者数 コロナで9月説明会を中止、11 月説明会を生徒に限るなどした ため、今年度実施の部分だけを 昨年と比較すると (今年度:1273名/前年度802名) 【○】 ②自治会による掲示板を定期的 に更新し、情報発信に活用した 【○】</p>
<p>(4) 保護者に向けた 情報提供の改善と推 進</p>	<p>(4) 保護者に向けた情報提供の改善と推進 ① これまでのメール配信について適宜検証しな がらより良いシステムに改善していく</p>	<p>① メール配信登録者数の増加 (前年度:85%)</p>	<p>①メール配信登録者数の増加 (今年度:99%)【◎】</p>